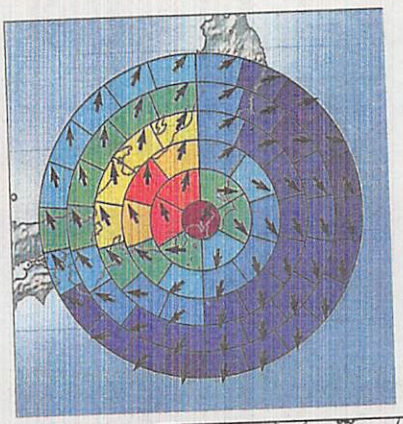
環境

e潮流 フォト

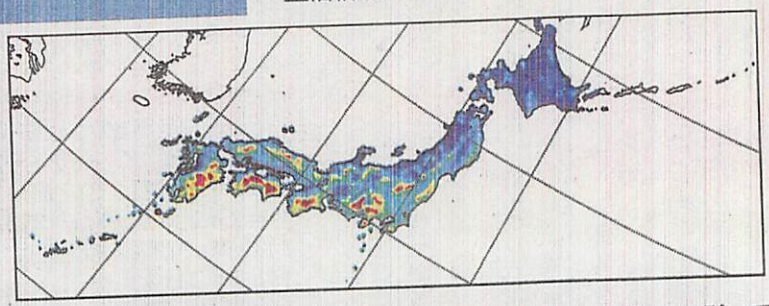
佐々木 英輔

台風の「逆襲」に立ち向かう

台風の「逆襲」――。気象学が専門で台風を研究する横浜国立大の筆保弘徳准教授は、被害が相次ぐ近年の状況をこう表現する。



◀横浜市からみて、台風の中心がどこにある時に風が強くなるかを表した図。北西側の赤い部分を通るときに特に強いとわかる＝生活情報サイト「ライフレンジャー」から



▶各地点の300キロ圏内に台風が進入した時の平均降水量の分布＝筆保さん提供

昨年は風水害が相次いだ。梅雨末期に起きた西日本豪雨は日本海を北上した台風7号が関係していた。9月に上陸した台風21号では、大阪湾で関西空港が孤立するなど、高潮や強風による被害が広がった。

3年前の台風10号は、珍しく東北地方の太平洋岸から上陸して岩手県や北海道で犠牲者が出た。2013年の伊豆大島の土砂災害、11年の紀伊半島大水害も台風がもたらした。

「これまでにない降り方が増えている。コンピューターでは再現できても、我々の頭も現実に追いついていない状態」と筆保さんは言う。

終戦から間もないころは、死者が5千人を超えた伊勢湾台風をはじめ大きな被害が相次いでいた。その後は、予報の進歩や堤防などの整備もあって被害は抑えられてきた。しかし今後は、地球温暖化に伴って台風の勢いが増し、これまでにない被害を招くことが懸念されている。実際、日本に上陸した台風の傾向を調べると、00年代後半以降は、上陸時の気圧が970ヘクトパスカル未満の強い台風の割合が特に高いという。

筆保さんらは「台風ハザードマップ」を情報サイトで公表している。よくある浸水予測と違い、台風そのものの被害の受けやすさを表した。

風雨の強さは、台風のコースや周りの地形で変わる。千個以上の台風のシミュレーションを通じ、地域ごとの特徴を描き出した。東北地方でも太平洋側は、降水量が多くなりやすいことが地図から読み取れる。

さらに、台風の中心がどこにあるときに風が強くなるのかを地点ごとに円形の図で表現した。例えば、横浜市中区の図では、山梨県や富山県側が赤い。ここを台風が通るとき、横浜で特に風が強くなる。このときは南風になることも矢印でわかる。

同じ県内でも、遠くを通っても影響が大きい場所、山地に守られやすい場所など、違いは意外に大きい。こうした傾向は温暖化が進んでも変わらない。地域の特徴を知り、備えに生かしてもらいたいという。

今年も風水害の季節がやってきた。未経験の逆襲に立ち向かう第一歩は、「敵」の攻め方をつかむことだ。得られる情報は増えている。

サイトを見るにはスマホで「ライフレンジャー」を検索。左上のメニューボタンから「防災・備え」→「台風ソラグラム」。（編集委員）

◆「朝日新聞環境取材チーム」のツイッター（@asahi_kankyo）でエコの話題をつぶやき中

損保ジャパン日本興亜本社の売店のレジ横には、社内で集めたエコバッグが備え付けられている＝東京都新宿区

用する「シェアリング・エコバッグ」という取り組みを、昨年末に始も、業界団体との調整や制度設計らの議論になる。レジ袋の有料化も期待できる」と話す。（川村剛志、神田明美）

◇東京芸術劇式オンラインシ

ティッシュ食の魅力は健・テイラーのなく、マリリようなセックなく、オードンの清楚（せいそ）さと感」というま器を手にハリた、彼女の当よく分かる。

リー・マクレ感。今もなお現める。ジェームこほぼ同世代と人宰治と松本清あると知った時感じる。

カット 和田・誠